

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立田辺高等学校	中山 浩樹
学校所在地		
〒 646 -0024 和歌山県田辺市学園 1 番 7 1 号 tel 0739 (22) 1880 fax 0739 (22)0636		
担当者名	役職名・担当教科	
大濱 新	教諭 (ESD 推進班長)・地理歴史科	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は明治 29 年に創立された和歌山県第二尋常中学校（明治 34 年に和歌山県立田辺中学校と改称）を母胎とし、創立 120 年を越えている。「合理的な思考」「豊かな情操」「積極的な行動」を教育目標とし、21 世紀に入って力強く、積極的に、心豊かに生きていく力の育成に努めている。現在は普通科と自然科学科（田辺中学校からの接続）の 2 学科で、生徒は文武両道を目指し、勉強と部活動に励んでいる。</p> <p>2017 年からはユネスコスクールとして、世界遺産の地にある高等学校として「地域」学習と国際理解を結びつけた学習を展開している。また、学習をより効果的に行うために、外部機関の協力により、講師派遣や現地学習を行っている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 全学年 960名	10名 職員28名	本校 田辺市周辺 熊野参詣道 等
実践研究テーマ		
世界遺産の有する地域を学び、グローバルな視点を身につけ、世界に発信する。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間 SEEKER（生徒委員会活動）	「地域の課題解決学習～地域からの発信」 「地域を考え、グローバルな視点を持ち行動する」	
〔キーワード〕 世界遺産保全と活用 熊野参詣道（熊野古道） 国際理解 地域創生		
<p>〔目標〕</p> <p>一・二学年の総合学習を通して、それぞれが取り組んだ「地域を知る」・「地域からの発信」をさらに深めるために、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の学習を通して、世界遺産登録の理由、世界遺産に登録されたことによる地域の変化、文化的景観を守ることが地域を守り、地域創生へと繋がることを理解させる。また、急増するインバウンドの状況を理解し、自分たちに身近な「熊野」が国内外から高い評価を受けていることを理解し、この地域に誇りを持つ人材を育てる。</p> <p>また、ユネスコスクールとして、世界遺産等を通して「国際理解」をし、ユネスコの目標である「国際平和」に貢献できるための幅広い知識やグローバルな視点を育成する。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 15 時間（「総合学習での講演及び課題解決学習 10 時間及び次世代育成事業 5 時間」）		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>田辺市 田辺市熊野ツーリズムビューロー 和歌山県商工観光労働部観光振興課 和歌山県世界遺産センター 立命館大学経済学部 花王株式会社和歌山工場 セールスフォース・ドットコム白浜オフィス等</p>		

実践に関する事項

〔指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	一年次総合学習 一学期：「地域を知る」一学年全員が各自テーマを設定し、総合学習などの時間で、自分たちの地域について調べ学習をし、プレゼンを行う。	田辺市長による講演などで、この地域が国内外から注目されている点や地域から世界へ発信している事例について学んだ。	総合学習における評価による
2	一年次総合学習 二・三学期：「地域の課題解決学習」「地域を発信する」ことを目的に、防災・世界遺産・熊野古道・紀伊半島の自然等のテーマ設定を行い、ポスターセッションを行う。	グループに分かれて、地域の企業や団体等を訪れ、現地でのヒアリングや調査を実施した。	総合学習における評価による
3	地域観光ゼミの実施 総合学習をより深めて学習をする生徒委員会（SEEKER）の生徒を対象に、世界遺産熊野の観光のあり方・保全のあり方などについて年6回のゼミを開催する。	和歌山県世界遺産センター所長に講師を依頼し、和歌山県の観光施策・世界遺産の保全と活用・観光マーケティング戦略などについて、少人数によるゼミを放課後に実施した。	
4	次世代育成事業への参加 世界遺産保全活動（参詣道保全活動）を通して、自分たちが高校生として何ができるのかを考える。また、この地域が世界から認められた地域であることを自覚する。	世界遺産センター職員による講義や道普請の指導を通して、世界遺産の意義や保全の大切さを学んだ。また、花王株式会社和歌山工場と協働し保全活動を実施したことで、社会で求められる力を学ぶ機会となった。	
5	三年次総合学習：三年間の集大成として、和歌山県世界遺産センター所長による和歌山県の魅力について学ぶ。	和歌山県世界遺産センター所長に依頼し、世界遺産を含めた和歌山県の魅力、次世代の担い手である高校生に求められることなどについて学んだ。	総合学習における評価による

〔学習の成果と課題〕

総合学習を通して、地域を学び、生徒が自ら課題解決学習に取り組んでいる。その成果発表として、プレゼンテーションやポスターセッションを行うことで、自分の意見を他人に分かりやすく伝える力・質問に臨機応変に対応する力が身につけている。また、二年次や校外では英語によるプレゼンを行う機会があることから、英語運用能力を身につけることもできている。

地域を学ぶことで、毎年、国内外から多くの人々が訪れるこの地域は、世界中から認められた唯一無二の地域であることに生徒が気付くことができるようになった。この結果、三年生では、他府県への大学進学した後は、和歌山県・地元に戻り就職したいと希望する生徒も多くなっている。

今後、学習を進めるに当たっては、時間的・経済的な制約があるなかで、「どのように現地学習を効率よく行うか」が課題である。

〔世界遺産学習の効果〕

世界遺産学習、特に次世代育成事業に参加し、世界遺産の基本・紀伊山地の霊場と参詣道の登録の経緯・文化的景観等を学ぶことで、「熊野地域」の高校生として、「是非、今後も世界遺産の保全と活用に取り組みたい」という生徒の感想がみられた。特に、従来は観光面で世界遺産を取り上げていた生徒も、世界遺産は「人類共通の宝物」であるからこそ、保全することが大切であり、保全することが観光にもつながるということを生徒が気付くことができた。

高校生にとっては聞き慣れない「文化的景観」について学ぶことで、地域の文化やくらしを守ることが文化的景観の維持にも繋がり、地域社会を守ることと世界遺産を守ることが関係していることが理解できたのは大きな成果であった。

本年度、世界遺産センター所長による地域観光ゼミを開講し、聴講生が世界遺産の保全と活用のあり方や県の世界遺産戦略を学び、自分たちができる取り組みを始めようという姿勢がみられるようになった。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

ユネスコスクールとして、ユネスコが「国際社会の平和」のために創設され、そのユネスコと世界の多くの国と締結した「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」は、国際平和と深く関わるものであることを生徒に認識させる必要がある。今後は、世界遺産を観光の側面にとらえる生徒が多いことを踏まえ、世界遺産の歴史やユネスコ憲章前文にあるユネスコの精神を今一度、一年次から学習することが必要と考える。

また、田辺市へは世界遺産構成資産である熊野参詣道を歩くために多くの外国人が来訪している。このことから、世界遺産を通して、生徒がグローバルな視点を養えるような学習を展開していきたい。

## 様式 2

### 令和元年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

#### 1 和歌山県世界遺産センター職員による講義

世界遺産センターで世界遺産の意義・「紀伊山地の霊場と参詣道」の概要・ユネスコと平和についての講義を受けました。身振り手振りによる説明を受け、世界遺産をより身近なものに感じることができました。パワフルな先生のお話に興味深く講義を受ける生徒が多く、あっという間に時間が過ぎていきました。

昨年に、当センターによる「世界遺産入門」を受けた生徒もおり、世界遺産の保全と活用の大切さ・文化的景観の担い手である高校生に期待するものを改めて実感できるものとなりました。



[ 世界遺産講座 ]

#### 2 花王株式会社和歌山工場の皆様との参詣道保全活動

花王株式会社和歌山工場の皆様と本校生徒国際委員会（SEEKER）の生徒が参詣道保全活動として道普請を実施しました。熊野参詣道中辺路（式水）での作業では、土置き場から保全場所までかなりの距離でしたが、花王の皆様にお声かけや励まされたおかげで4トンの土入れを終えることができました。土入れは単に土をいれるだけではなく、世界遺産として修復の履歴を残すため、三重県産の真砂土を使用していること、文化財の修復として「タコ」などの昔ながらの道具を用いていることなどを教えていただきました。道普請を通して、生徒たちは自分たちが世界遺産や地域の文化、社会の担い手であるということを改めて認識する大変良い経験になりました。

今後とも継続して道普請を実施していきたいと考えています。



[ 参詣道保全活動 道普請 ]

#### 3 熊野参詣道現地学習

熊野参詣道の現地学習として、大斎原から湯峯温泉までの参詣道を世界遺産センター職員の皆様などに説明を受けながらウォークしました。今回の大日越は歩く距離は少ないものの歩き始めの登りが長く、思ったよりも大変でしたが、多種の木々に囲まれた道で、湯垢離の場である湯峯温泉と大斎原をつないだ面影が残る道でした。発心門王子から本宮大社までの古道を歩いたことのある生徒も多くいますが、生徒全員が初めて大日越を歩くことができ、熊野古道といっても様々な道があることを実感することができました。



[ 世界遺産現地学習 大斎原 ]

#### 4 世界遺産の保全と活用について（地域・観光ゼミ）

熊野参詣道の保全については参詣道保全活動（道普請）を行い、活用面から世界遺産を考えるために、和歌山県世界遺産センター所長に來校していただき、年間6回にわたる地域・観光ゼミを開講しました。世界遺産としての質を保つことの大切さや観光面で活用するためにこれまで行ってきた和歌山県の取り組みなど、毎回貴重なお話をきくことができました。ゼミ参加生の中には、世界遺産の保全と活用を大学で学びたいという生徒もおり、ゼミで学んだことをふまえて大学入試（推薦）に取り組み、国公立大学に合格した生徒もいました。

来年度以降も「地域・観光ゼミ」を開講し、世界遺産の保全と活用・世界遺産の地と地域のあり方などについて学んでいきたいと考えています。



[ 地域観光ゼミ ]

#### 5 次世代育成事業に参加して

ユネスコスクールとして田辺高等学校が世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をフィールドに、様々な角度から学習できることは大変有意義なものであると考えています。花王株式会社和歌山工場の皆さまと道普請をご一緒することで、企業の社会貢献活動（CSR活動）が企業主体の活動から、社員一人ひとりがそれぞれの地域社会のなかで、主体的に貢献する活動へ変化していることを学び、地域社会の一員として世界遺産を保全することの大切さを知ることができました。また、世界の平和のために創設されたユネスコの世界遺産に登録され、世界中から多くの人々が熊野参詣道や高野山などに訪れることが平和へとつながることを生徒が学ぶことができました。

是非、来年度も次世代育成事業に参加したいと強く思いました。